



IC・PA写真：NEXCO 中日本



広報
わかさ

No.113 2014. 9



Water

まちの水を追いかけて

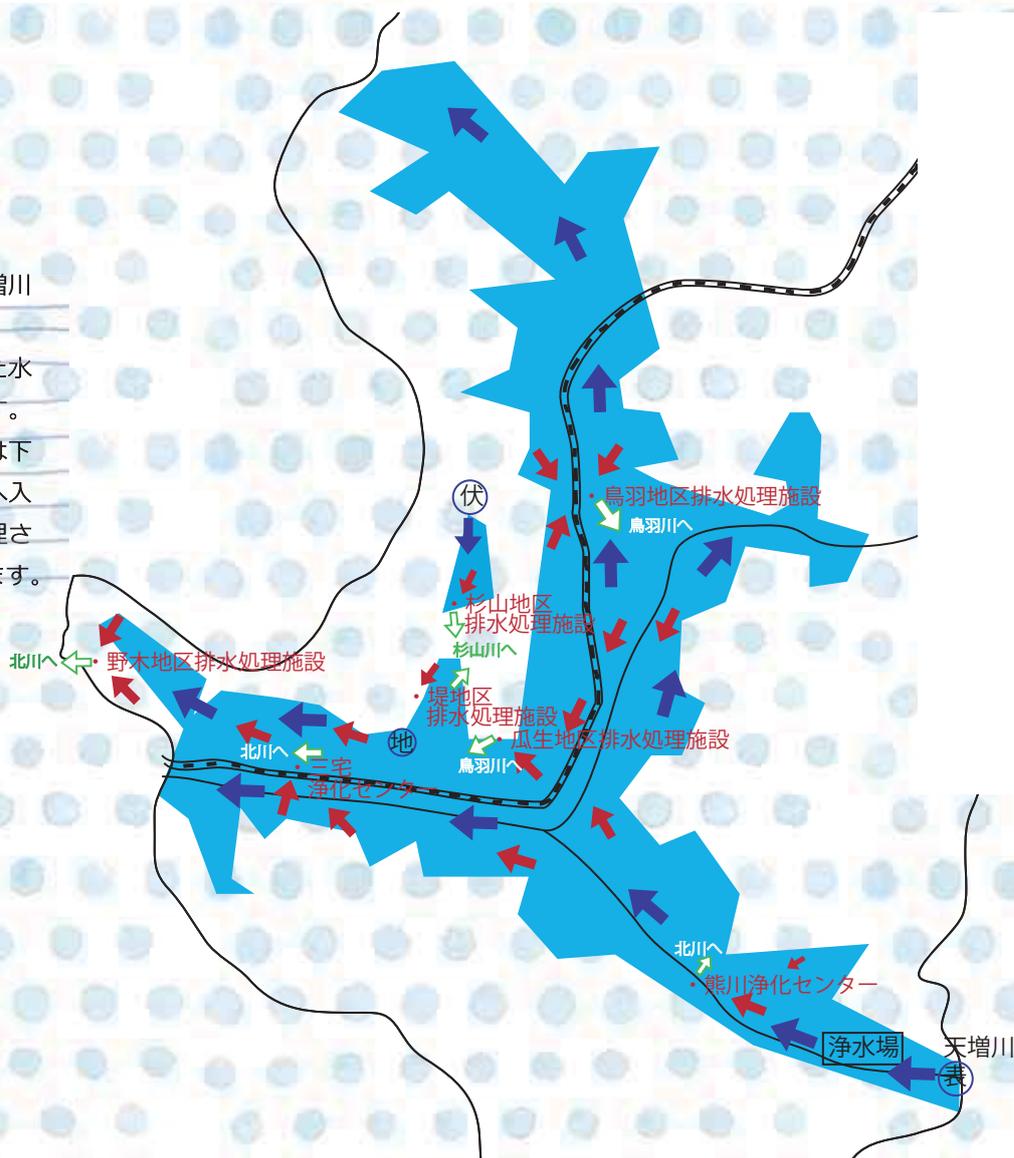
蛇口をひねれば、いつでもおいしい水が飲める若狭町。
ときには台風や大雪などの自然災害によって水が濁ったり、夏場には渇水ということもありますが、
それでもおおむね一年を通して安定した水が供給されています。
また、台所や洗面所、お手洗いで使用した水も、家庭の配管を通して消えていきます。
今回はそんな水の流れを追ってみました。

上中地域

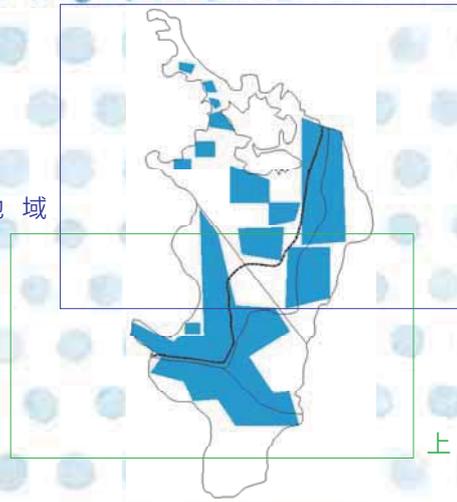
上水道の取水口は滋賀県天増川
です。

熊川浄水場でろ過滅菌された水
は上中地域に配水されています。

家庭や企業で使用された水は下
水道を通して各地区の処理場へ入
り、元のきれいな水同様に処理さ
れ、近くの川へ放水されています。



三方地域



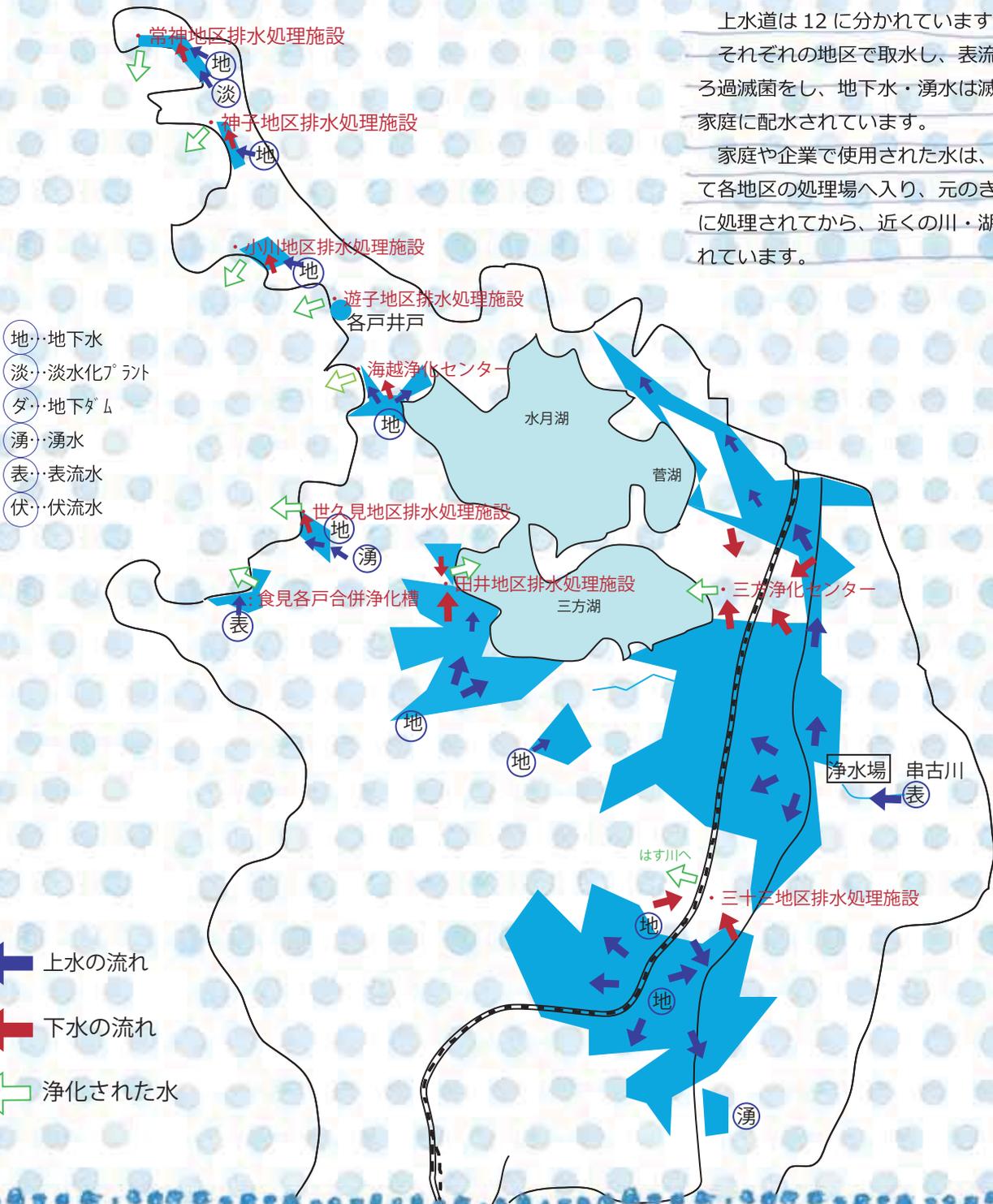
上中地域

三方地域

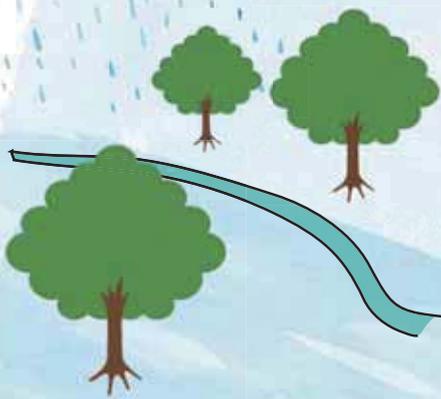
上水道は12に分かれています。

それぞれの地区で取水し、表流水は浄水場でろ過滅菌をし、地下水・湧水は滅菌を行い、各家庭に配水されています。

家庭や企業で使用された水は、下水道を通過して各地区の処理場へ入り、元のきれいな水同様に処理されてから、近くの川・湖・海へ放水されています。



蛇口から出てくる水は、元はといえば空からの雨の恵み。
 けれど、その雨の元をたどると…そう。私たちが利用し終えた水も含まれているのです。
 いつでもおいしい水が飲めるには、地球上の水を美しく保つ必要があります。
 限りなくあふれて出てくるように思っている水を、本当に限りなく利用するには、
 私たちの日頃の取り組みが必要なんですね。



取水口



着水



沈殿



上水システム



水路



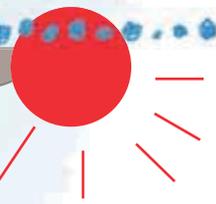
ろ過

空から地中へ…
 地中から川へ…
 取水した水は浄水場へ…
 浄水場で沈殿…攪拌…
 ろ過滅菌…
 浄水池、配水池を経て
 各家庭へ。

ひちくちメモ

『水を使って、排水を処理するのに、
 いくらの費用がかかっていますか？』

平成 24 年度決算を見ると、
 上水道にかかる費用：年間一人あたり 33,000 円弱。
 下水処理にかかる費用：年間一人あたり 64,000 円弱。
 なんと！！地球から水を受け取って返すのに、
 年間 97,000 円もかかっているのです。
 大切な水を永久に利用できるように、
 大切に大切に利用したいものですね。



ひちくちメモ

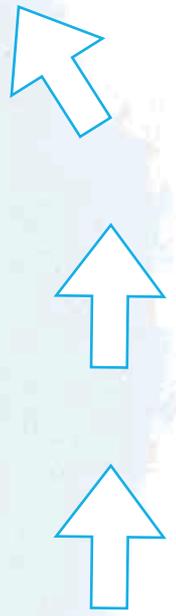
『こんな活動もしています』

上中地域では、
各家庭の下水道配管にクリーン柵が設けられ、
集落ごとに決められた下水道管理組合役員が
各戸をまわり、クリーン柵の点検を行っています。

また、下水道の中でのモノの溶け方を
比較して見せるような活動も行っています。

写真：三宅小学校児童の学習会。

トイレトーパー、ティッシュペーパー、
トイレクリーナーの紙を、水の入った瓶に
入れて振った後の溶け方の違いを学びます。
水に入れてもほとんど変化のないティッシュ
は流してはいけないと実感。



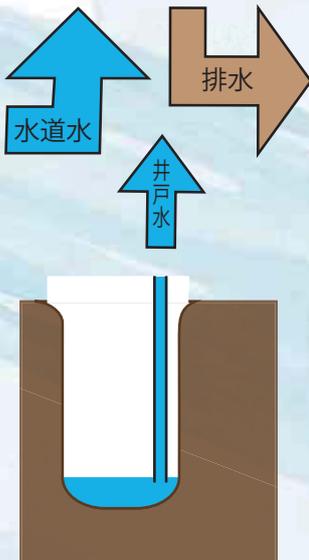
浄化設備

家庭や企業で利用された水は、
排水口から下水道管へ…
処理施設に…
処理施設で攪拌…
汚泥と分離…などを行い…
きれいな水になって川・湖・海へ

水と分離された汚泥は、
脱水処理後、乾燥して
産業廃棄物として運搬され
焼却されています。



蒸発



浄化終了水



浄化終了水点検穴



川・湖・海





凛々しく素早く正確に

7月6日、第44回消防ポンプ操法大会が若狭消防署上中分署前の訓練場で開催され、上中消防団5チームと自衛消防団9チームが出場しました。

出場した団員たちは、きびきびとした動作でホースやポンプを的確に操作し、日ごろの練習の成果を発揮していました。団員の家族や観客は訓練場周辺や上中分署2階から大会を見守り、1チームの出番が終わるごとに大きな拍手が起こりました。

〈大会結果〉

消防団の部

1位：第1分団 2位：第4分団

自衛消防団の部

1位：若王子 2位：杉山 3位：下吉田

ピカピカのトンネルで学ぼう

7月14日、岬小学校・三方中学校岬分校で交通安全教室が行われ、子どもたちがトンネル内を安全に通行するルールを学びました。

子どもたちは敦賀警察署員と一緒に神子トンネルを小川出口まで歩きながら、歩道では壁側に沿って歩くこと、万が一に備えた緊急時の対応や非常電話の場所と使い方などを教わりました。

トンネル出入り口付近の道路を横断する時は、「ゴーンという音が聞こえたら車が近づいているので渡らない」というルールに従って、横断の練習を行いました。子どもたちは開通したばかりの神子トンネルに興味深く見学しつつも、真剣な表情で取り組んでいました。



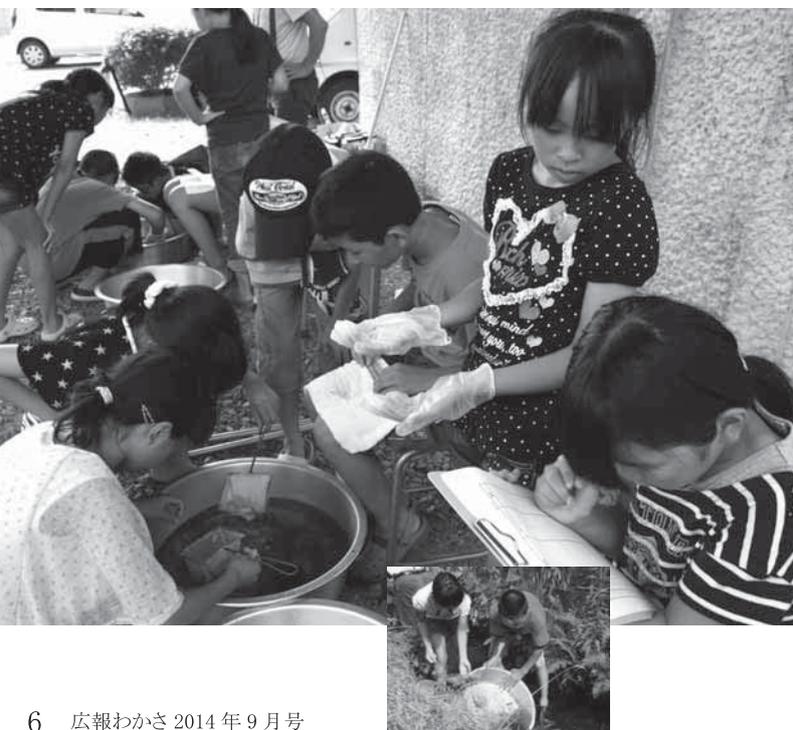
Photo:Keiko Sugimoto

また帰ってきてね

7月23日、三方小学校5年生23人がゆりかご田んぼで育ったコイとフナを田んぼ近くの小川に放流しました。

これは5月に田植えをした際、三方湖から上がってきた魚が仕掛けておいたシュロに卵を産み付け、そこから孵化して大きく育った魚たちです。

放流する前には、海浜自然センターの小堀徳広さんにフナとコイの見分け方を教わったり、タオルの上でピチピチと跳ねる魚と格闘しながら大きさを測りました。子どもたちは魚に負担をかけないよう工夫しながら、生き物とのふれあい方を身につけていたようでした。





感じる身近な自然遺産

7月12日、常神のソテツ、水月湖、宇波西神社の大杉など、若狭町の自然遺産を巡るバスツアーが行われました。

水月湖では、年縞の採取現場のやぐら周辺で調査隊の中川毅教授から、世界標準となった年縞についても説明がありました。また参加者たちは、採取したコアの整理作業を興味深げに見学していました。

その後、若狭三方縄文博物館で、高知県室戸市の世界ジオパーク認定に貢献した柴田伊廣さんを講師に迎え、「まちづくりに活かす大地の物語」と題した講演会が開かれました。

ダイヤモンドでPR

7月12日、プロ野球独立リーグ（BCL）の福井ミラクルエレファント対群馬ダイヤモンドペガサスの公式戦が、美浜町民広場野球場で開催されました。

この日は「若狭町の日」として、ゆるキャラのわかさ梅ぼうがレインボーラインなど町の観光地をPR。町職員が観光パンフレットを配布したり、梅ドリンクや梅ゼリーなどの販売も行われました。

開会式では美方高校の合唱部1・2年生13人が国歌を斉唱し、会場は大きな拍手に包まれました。

森下町長は「舞若道の開通によってアクセスがよくなります。食べ物のおいしい若狭町にまた遊びに来てください」と挨拶し、始球式を行いました。



便利だからこそ気をつけて

7月18日、教育講演会（第1回ユースアドバイザー養成講座）が上中中学校で行われました。

講師は佛教大学（京都市）教授で、ネットや携帯電話を使ったいじめなどについて論文や本を執筆されている原清治さん。インターネットトラブルは、軽いノリや悪ふざけがやり過ぎた結果を招くものであると、生徒に熱い言葉で語りかけました。

ネット依存による学力の低下や、中学生は将来を左右する大切な時期であることなどを話されました。原さんの力強い訴えかけに、生徒、参加した保護者やユースアドバイザー会員たちは、夏休みを前にして気を引き締めた様子でした。



絵本の力・伝える力

7月16日、気山小学校PTA主催の「読書で親子の絆を深めよう」という取り組みの一環として、絵本作家の長谷川義史さんを招いて絵本ライブが開催されました。

長谷川さんは即興で絵を描きながら、客席に歌いかけるような口調で自己紹介や読み聞かせをしました。中盤では、子どもたちに地元のおいしいものを発表してもらい、その場で「若狭うまいものうた」をつくり、全員で歌うという試みも。

参加した子どもたち、住民、保育士や読み聞かせボランティアなどは、長谷川さんが絵を描きだした瞬間にその世界に引き込まれ、一緒に歌ったり笑ったりして会場は一体感に包まれていました。

年縞調査、順調です！

7月25日、若狭町観光ホテル水月花で「中川教授による調査報告会及び水月湖年縞調査隊を囲む夕べのつどい」が開催され、調査隊スタッフや関係者約60人が参加しました。

水月湖年縞の調査を進めている立命館大学の中川毅教授は、年縞調査は非常に順調に進んでいるとした上で、「年縞に対する地元の認識が高いことに驚き、嬉しく思います」と述べました。また、「世界中の考古学・地質学研究を水月湖の年縞が高い精度で支えているのは凄いこと」と、現在の世界の年縞研究とも比較しながら解説しました。今後は関連書籍の出版や、学校の教科書にも掲載される予定があることなどが報告されました。



若狭の“おいしい”がいっぱい

7月26日、福井新聞主催のイベント「ふくいフードキャラバン」が若狭町で開催されました。町内外から参加した20人は、まず梅の里加工体験施設で梅干しのシソ漬けのワークショップを体験。その後、三方青年の家に場所を移し、瓜割の水とかみなか農楽舎産の米で飯ごう炊飯し、おにぎりを握りました。

湖畔の東屋でのメインイベント「湖のビストロランチ」は、料理家の藤本よし子さんが会場のコーディネートを担当しました。料理は町内で飲食店を営む竹中淳二さんが腕を振るいました。三方湖産の川エビをはじめ、地元産の材料を使った素材を活かしたメニューが次々と並び、参加者は暑さを忘れ、できたての料理に舌鼓を打っていました。

また、美方高校食物科の1年生6人が、体験施設でのアシスタントやランチ会場でのウエイトレスを務めました。

